愚庵和尚研究 便覽

島田忠夫

○はしがき

予の愚庵研究も大体完成し平町に足をとゞめる要もなくなつたのであるが、今後一層世に和尚の高名は廣まるであらうし、態々平町に遺墨等を閲覧に來る士もあるであらう。故に予は玆に愚庵和尚研究便覽なる一文を記し置く。これは又、平町の同好の士が、禮を致して乞へば閲覧の便を得譯であるし、是非一見さるることを切望する。

○愚庵の遺墨所藏家

山崎與三郎氏　一點
加藤　丈夫氏　四點
高久　忠氏　一點
伊坂　員正氏　四點
長瀬　廉平氏　一點
有賀幸太郎氏　一點
坂本　隆藏氏　一點
森本　盛一氏　一點
眞木　鏘吉氏　二點
加藤　正康氏　一點
眞木　正之氏　一點
三井泉服店殿　二點
横　內　氏　一點
市原卯太郎氏　一點

○愚庵和尚俗緣

平町に於ける愚庵の俗緣には、加藤丈夫氏、眞木鏘吉氏、有賀幸太郎氏、母方の關係からは田村顯允氏等がある。

○愚庵の出生と場所

和尚の出生は安政元年七月二十日、出生場所は平町白銀町濱邸（現平機關庫の北東隅）。

○愚庵關係出版及研究

和尚の歿後に出版されしもの、及び執筆紹介されしものを左に記す。

○愚庵遺稿　陸實編

○短歌私鈔　齋藤茂吉
○續短歌私鈔　同
○近世萬葉調集成　植松壽樹
○曙覽と愚庵　相馬御風
○歌人愚庵（いはらき）　山村暮鳥
○愚庵和尚（いはらき）　島田忠夫
○愚庵全集　寒川鼠骨
○愚庵研究（磐城新聞）　島田忠夫
○良寛、元政、愚庵　長谷川某
○愚庵の生年月日（アララギ）　島田忠夫
○和尚父母妹の最後（アララギ）　同
○年譜（磐城新聞、アララギ）　同

以上

（十月五日記）

時代警語

○有德なる婦人は良人の命に纏れ從ひて却て良人を左右す……（サイラス）
○有德なる婦人は良人の王冠なり……（聖書）
○無恥の婦人は人間の中の最も惡きものなり……（ヤング）
○女子と痴漢とは極端に走る……（ポープ）
○婦人の憂愁は夏日の暴風の如し、烈しきも短かし……（ジョアン、ベーリー）

春の月　（童謠詩）

原田小太郎

唯はげんげの
花ざかり
黄ろい春の
月あかり

芋錢老　（一）

島田忠夫

牛久の小川芋錢書伯、近來健康すぐれずとなり一日予に書をたまひて、病間にものす書帖を與へ給ふとなり。乃ち予、芋老の書帖を待つことしきり、又芋老の健勝を祈ることしきり。

鳥が鳴くあづまの國の君よりぞ便り來しかど吾がなぐさまぬ

老いの身のすぐれぬといふ君が便りおほに案じて吾は讀みにけり

牛久沼夕べ照らして出で遊ぶ河童のこもら君をまもらせ

拙華徹笑

重臣動く時季節外れの颱風。

◇

風伯雨師も見て居れ無くなつたのかな

◇

風速二二米四。其調子で不景氣を吹つ飛ばして貰へまいか、

◇

けふ秋高肥馬の好天氣。凡て切り上げは恁う來なくちや嘘だ

◇

恁慶のなら穩かせ度いものだ

◇

鐵道用炭增加。見ると、右の手にシツカリ多張つて居る、喜助は一旦體を見ると夢中で飛付いた熊五郎の三尺を握つて居ります　喜『此の野郎、弱い野郎だ、斯ン畜生〳〵』と踏んだり蹴つたり持つて居た三尺で兩手を括して終ふ、おテフは夫れには目も呉れず　蝶『三吉どうだ、自狀が途中で支えて仕舞つたが、丸八の娘お露は、淋草の田原町のどこへ持込んだ』三『丹波屋助五郎てえ女衒の家へ擔ぎ込みやした！』蝶『なんで其んな所へ持つて行つたのか』三『年一杯百二十兩で賣つたのでござへやす』蝶『年一杯とはどう云ふ事なのだ』三『夫りやア女郎は二十七迄しか奉公が出來ねへお上の掟なので其二十七迄勤めると云ふのを、わつち共の仲間では手ツ取り早く年一杯と斯う申すので』テフ『ハヽア二十七歳までの年期奉公をする約束で、百二十兩金に賣つたのだな』三『左樣でござへやす』蝶『山谷のコブの留藏のところへ預けてあるのではないか』三『其んな事は有りやアせん、わつち共が騙ぐ女に猿轡をはめて丹波屋へ擔ぎ込んだのでげすから』蝶『然らばその百二十兩の金はどうした』三『親分が持つて歸つて、分け前は朝にする疲れたから早く寢ろと、居間の小箪笥の引出しに入れやした』テ『能くべう〳〵と喋つたものだ』三『左樣でござへやす』蝶『勘辯するにはするが金子の有る處へ案內しろ』三『ヘゝ〳〵』おテフの長兵衛は三吉を引立つて熊五郎の宅へ入る、れ百姓逢跡からゾロ〳〵。

俠艶女長兵衛

東京　斯波南叟

（魚崎潮畫）

（四〇）

蝶『サア返答はどうだ、丸八の娘お露を擔ぎ込んだのは何れだ』三吉は考へる暇もない　三『それは田原斯んな都合の好い事はあり町の……』と言ひ掛けるとどし一貫に成つて逸足を出す、おテフは驚がす夫れを見てゐたが、手には可なり大きな石を持つて居ります後から此の石を投げる積りだつたが、喜助が邪魔になる……熊五郎の背筋を打つには喜助が退いてからでなくてはならないと待つてゐた、丁度丸裸になつたから

『ヤツ』と云ふ矢聲諸共投げてバラ〳〵〳〵と逃げ出げ付ける、ブーン……風を切つて飛ぶ石の速さ、熊五郎の背筋へドーン……、妙なものの名手だがおテフは石を投げる事に巧妙だつた！　三『ダッテ命にやア代へられやせん、是れでござへやす』蝶『勘辯するにはするが金子の有る處へ案內しろ』三『ヘゝ〳〵』おテフの長兵衛は三吉を引立つて熊五郎の宅へ入る、れ百姓逢跡からゾロ〳〵。

熊五郎堪らなくなつたと見えてバラ〳〵〳〵と逃げ出げ付ける、ブーン……風を切つて飛ぶ石の速さ、熊五郎の背筋へドーン……、妙なものの名手だがおテフは石を投げる事に巧妙だつた！　三『ダッテ命にやア代へられやせん、是れでござへやす』蝶『勘辯するにはするが金子の有る處へ案內しろ』三『ヘゝ〳〵』おテフの長兵衛は三吉を引立つて熊五郎の宅へ入る、れ百姓逢跡からゾロ〳〵。

熊五郎堪らなくなつたと見えてバラ〳〵〳〵と逃げ出げ付ける、ブーン……風を切つて飛ぶ石の速さ、熊五郎の背筋へドーン……、妙なものの名手だがおテフは石を投げる事に巧妙だつた！　三『ダッテ命にやア代へられやせん、是れでござへやす』蝶『勘辯するにはするが金子の有る處へ案內しろ』三『ヘゝ〳〵』おテフの長兵衛は三吉を引立つて熊五郎の宅へ入る、れ百姓逢跡からゾロ〳〵。

講談

俠艶女長兵衛

東京　斯波南叟

（魚崎潮畫）

（四〇）

蝶『サア返答はどうだ、丸八の娘お露を擔ぎ込んだのは何れだ』三吉は考へる暇もない　三『それは田原斯んな都合の好い事はあり町の……』と言ひ掛けるとどし一貫に成つて逸足を出す、おテフは驚がす夫れを見てゐたが、手には可なり大きな石を持つて居ります後から此の石を投げる積りだつたが、喜助が邪魔になる……熊五郎の背筋を打つには喜助が退いてからでなくてはならないと待つてゐた、丁度丸裸になつたから『ヤツ』と云ふ矢聲諸共投げてバラ〳〵〳〵と逃げ出げ付ける、ブーン……風を切つて飛ぶ石の速さ、熊五郎の背筋へドーン……、妙なものの名手だがおテフは石を投げる事に巧妙だつた！　三『ダッテ命にやア代へられやせん、是れでござへやす』蝶『勘辯するにはするが金子の有る處へ案內しろ』三『ヘゝ〳〵』おテフの長兵衛は三吉を引立つて熊五郎の宅へ入る、れ百姓逢跡からゾロ〳〵。

愚庵和尚研究 便覽

島田忠夫

○はしがき

予の愚庵研究も大体完成し平町に足をとゞめる要もなくなつたのであるが、今後一層世に和尚の高名は廣まるであらうし、態々平町に遺墨等を閲覧に來る士もあるであらう。故に予は玆に愚庵和尚研究便覽なる一文を記し置く。これは又、平町の同好の士が、禮を致して乞へば閲覧の便を得譯であるし、是非一見さるることを切望する。

○愚庵の遺墨所藏家

山崎與三郎氏　一點
加藤　丈夫氏　四點
高久　忠氏　一點
伊坂　員正氏　四點
長瀬　廉平氏　一點
有賀幸太郎氏　一點
坂本　隆藏氏　一點
森本　盛一氏　一點
眞木　鏘吉氏　二點
加藤　正康氏　一點
眞木　正之氏　一點
三井泉服店殿　二點
横　內　氏　一點
市原卯太郎氏　一點

○愚庵和尚俗緣

平町に於ける愚庵の俗緣には、加藤丈夫氏、眞木鏘吉氏、有賀幸太郎氏、母方の關係からは田村顯允氏等がある。

○愚庵の出生と場所

和尚の出生は安政元年七月二十日、出生場所は平町白銀町濱邸（現平機關庫の北東隅）。

○愚庵關係出版及研究

和尚の歿後に出版されしもの、及び執筆紹介されしものを左に記す。

○愚庵遺稿　陸實編

○短歌私鈔　齋藤茂吉
○續短歌私鈔　同
○近世萬葉調集成　植松壽樹
○曙覽と愚庵　相馬御風
○歌人愚庵（いはらき）　山村暮鳥
○愚庵和尚（いはらき）　島田忠夫
○愚庵全集　寒川鼠骨
○愚庵研究（磐城新聞）　島田忠夫
○良寛、元政、愚庵　長谷川某
○愚庵の生年月日（アララギ）　島田忠夫
○和尚父母妹の最後（アララギ）　同

以上

（十月五日記）

時代警語

○有德なる婦人は良人の命に纏れ從ひて却て良人を左右す……（サイラス）
○有德なる婦人は良人の王冠なり……（聖書）
○無恥の婦人は人間の中の最も惡きものなり……（ヤング）
○女子と痴漢とは極端に走る……（ポープ）
○婦人の憂愁は夏日の暴風の如し、烈しきも短かし……（ジョアン、ベーリー）

春の月　（童謠詩）

原田小太郎

唯はげんげの
花ざかり
黄ろい春の
月あかり

芋錢老　（一）

島田忠夫

牛久の小川芋錢書伯、近來健康すぐれずとなり一日予に書をたまひて、病間にものす書帖を與へ給ふとなり。乃ち予、芋老の書帖を待つことしきり、又芋老の健勝を祈ることしきり。

鳥が鳴くあづまの國の君よりぞ便り來しかど吾がなぐさまぬ

老いの身のすぐれぬといふ君が便りおほに案じて吾は讀みにけり

牛久沼夕べ照らして出で遊ぶ河童のこもら君をまもらせ

拙華徹笑

重臣動く時季節外れの颱風。

◇

風伯雨師も見て居れ無くなつたのかな

◇

風速二二米四。其調子で不景氣を吹つ飛ばして貰へまいか、

◇

けふ秋高肥馬の好天氣。凡て切り上げは恁う來なくちや嘘だ

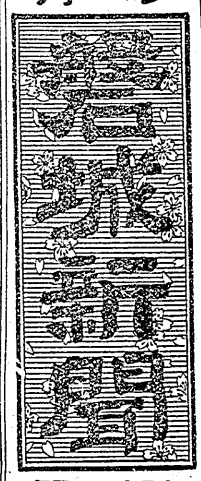
◇

恁慶のなら穩かせ度いものだ

◇

鐵道用炭增加。見ると、右の手にシツカリ多張つて居る、喜助は一旦體を見ると夢中で飛付いた熊五郎の三尺を握つて居ります　喜『此の野郎、弱い野郎だ、斯ン畜生〳〵』と踏んだり蹴つたり持つて居た三尺で兩手を括して終ふ、おテフは夫れには目も呉れず　蝶『三吉どうだ、自狀が途中で支えて仕舞つたが、丸八の娘お露は、淋草の田原町のどこへ持込んだ』三『丹波屋助五郎てえ女衒の家へ擔ぎ込みやした！』蝶『なんで其んな所へ持つて行つたのか』三『年一杯百二十兩で賣つたのでござへやす』蝶『年一杯とはどう云ふ事なのだ』三『夫りやア女郎は二十七迄しか奉公が出來ねへお上の掟なので其二十七迄勤めると云ふのを、わつち共の仲間では手ツ取り早く年一杯と斯う申すので』テフ『ハヽア二十七歳までの年期奉公をする約束で、百二十兩金に賣つたのだな』三『左樣でござへやす』蝶『山谷のコブの留藏のところへ預けてあるのではないか』三『其んな事は有りやアせん、わつち共が騙ぐ女に猿轡をはめて丹波屋へ擔ぎ込んだのでげすから』蝶『然らばその百二十兩の金はどうした』三『親分が持つて歸つて、分け前は朝にする疲れたから早く寢ろと、居間の小箪笥の引出しに入れやした』テ『能くべう〳〵と喋つたものだ』三『左樣でござへやす』蝶『勘辯するにはするが金子の有る處へ案內しろ』三『ヘゝ〳〵』おテフの長兵衛は三吉を引立つて熊五郎の宅へ入る、れ百姓逢跡からゾロ〳〵。

夕刊



十月十四日　磐城新行

定價一ケ月金五拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料金（一段通信欄金六拾錢　一段普通欄金九拾錢　一段特別欄金壹圓）
發行所　磐城新聞社
編輯兼發行人　木村哲
印刷人　木村哲
印刷所　磐城新聞社印刷部
（日曜祭日翌日休刊）

◎レコード破りの
石炭大廉賣！
（磐城炭礦二等炭）
正味十貫目一俵　金井錢也
◆品ガ良ク『値ハ安ク』ヲモットートスル當店ハ此度超破格ノ格安石炭ヲ販賣開始致シマス
◆値ガ安クトモ品ハ惡クハアリマセン
◎配達ハ一俵ヨリ致シマス
御注文は——電話二二三七番
平驛前　阿部石炭商店

診療時間　夜
胃腸　極毒
內科　十二指腸虫病
淋病　皮膚病　婦人病
專門
內科部　外科部
松村醫院
胃腸性病科
（平南町電話一〇七番）

ハシモトヤの糸
ピーハイブ手編毛糸一封度　二・五〇
ダイヤ印優等毛糸　同　二・三五
スキー印手編毛糸　同　二・二〇
百合印優等毛糸　同　一・五五
中細、極細、アストラン、スコッチ
毎日階上で編物講習會を致して居ます……。
どうぞ御遊びに御出下さい。
平町田町　ハシモトヤ糸店

敷島製
防水布製
ヒヨケ。テント
シート。雨合羽
カーテン。各種
東北ヒヨケの元祖
此のセキニンバンに御注意を願ひます。
常ニ品質ト技術ニ精進。間斷ナキ改良
近頃弊店名儀をたくみに利用し受註する者有る故御注意を願ひます。
平町六丁目大通り
敷島テント商店

かまぼこの
御用は藤寅へ……
儀式用折詰仕出し
御惣菜用　さつま揚　吉原揚
◇配達迅速◇
藤寅
平町一丁目　電話一四二番

お醬油は……ヤマフル
鹽屋
味噌醬油
たひら正宗
鰹節食料品
山崎合名會社
福島縣平町
電話（營業部一〇番　本店二七番）

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先ニ（マッサキ）
三九二タクシー（ミクニ）へ
（デンワ、ミクニ）

診察時間繰上
◎受付　午前七時より
◎宅診　午前八時より
但し急患者は此限りに非ず
難波醫院
醫學博士　難波睦
平町新川端（釜屋新宅向）
內科一般
電話五〇二番。
（入院需に應ず自炊の便あり）

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
平南町
上田醫院
病室完備（電話一二九）

專門　一般內科
內科ハ何デモ診療致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五（電話一八一番）
川井內科診療所
醫學士　川井重之
女醫　川井安子

產婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井阪醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

廣告
特賣
ヒコーキ材料
毛糸、ヌイ糸
小供自轉車
敎育玩具、裝飾品、縫糸毛糸諸雜貨
問屋　森下商店
平町一丁目
高久病院
院長　高久忠
平町田町電五一三

ラヂオ

十五日（木曜）
仙臺JOIK
△前六、三〇A　ラヂオ體操
△九、〇〇A　氣象通報
△九、一〇　料理獻立（烏賊すし）佐藤つぎ
△一〇、三〇A　家庭講座（疾病の豫防に就て）東京府知事牛塚虎太郎
△正午　A　時報
△〇、〇五A　三曲（夜々の星）
△〇、四〇A　ニュース　氣象通報　告知事項
△二、二〇　六、〇〇A　運動競技秋季六大學野球リーグ戰試合狀況…帝立二回戰）
△二、三〇A　經濟市況
△三、四〇　氣象通報
△三、五〇　經濟市況
△四、〇〇A　ニュース
△四、一〇B　角力中繼（關西大角力狀況）
△五、三〇A　經濟市況
△五、四五　今晩の番組豫告
△六、〇〇（子供の時間）
お話と讀美歌とピアノ
世界日曜學校記念日に因みて（一、お話『日曜學校に就て』武田章　二、合唱　三、お話　四、獨唱　五、合唱　六、ピアノ獨彈　七、獨唱）
△六、三〇A　英語講座（中等科第三講の二）勝俣銓吉郎
△七、〇〇A　ニュース　氣象通報　告知事項　生繭相場　番組豫告
△七、三〇A　座談會（早慶戰の今昔）
△九、〇〇A　連續講談（鎗屋政談伊勢の初旅）神田伯龍
△九、三〇A　ニュース（日本棋院秋季東西大手合戰續）
△九、四〇A　時報　ニュース　氣象通報　番組豫告
夏期氷水相營み候節は皆樣の御贔負に預り御蔭にて誠に良好の成績を得候段厚く御禮申上候
就而は近頃蒲鉾の原料も相見へ候に付近日より相初め候に付多小に不拘御用命の程御願申上候　敬具
蒲鉾類仕出し二丁目
御祝儀用鰹節
御惣菜薩摩揚
藤市蒲鉾店
電話三〇五

吹くも吹いたり 坪當り一二石九斗五升も降つたり

風速最高記録二十一米四 小名濱測候所の觀測に依る 昨夜の暴風雨

昨朝來の雨は終日小歇みなく夜に入つてからは強烈な北風さい加はつて暴風雨化し午後十一時頃となつて愈々猛勢を極め間斷なき家鳴り震動に瀧なす雨洩りに物凄い光景を現出し人はたゞその怖ろしさに息を殺し乍ら徒にナビルの咆哮に委すより外なかつた。南洋から來て十二日夜沖繩の東を通り昨十三日朝鹿兒島縣の南東岸をかすめ正午には土佐の足摺岬に出て一直線に針路を北東にとり午後六時には奈良縣南部から本州中部を通つて今朝七時二十分岩手縣宮古沖に出た七三六ミリと云ふ凄い颱風が二十二米四（烈風）と云ふ獰猛なスピードで石城の沖合を通過したのが昨夜の十一時四十分。其間の雨量は昨日午後六時から十時迄の四時間に亘つて坪當り一〇二ミリ（一石八斗六升六合强）昨午前十時から今曉零時三十五分迄一六〇ミリ七（二石九斗五升）と註せらるゝ

風唸り雨迸つて 物凄い水の平町

一、二丁目の大通りは覆盆風漸く靜まり風は南へ變つの雨を呑む下水が無い爲瞬て星さへ閃き始めたので安く間に道路は川の樣になつ堵の胸をなで下したも束のて少からぬ床下浸水を見る間今曉午前三時頃から夏井に至つた外例年水害に苦し川、愛谷筋、好間川、新川められる六、七町目、鎌田其他の大小河川は濁流刻々方面、仲間町、北白銀、久增水し低地の大半は殆ど床保町方面、長橋町方面では下浸水を見た外平町周圍の銳意警戒に努める内同十二田間は何れも泥水に覆はれ時から約三十分に亘つて停るに至り橋梁の流失道路の電の爲眞つ暗闇となり風の破壞門扉の倒潰其他郡下一唸りと驟雨のつぶてを縫つ圓に亘る被害は可成り甚大て右往左往する警戒の人影なものあるべしと見られて物凄く見へたが時餘にしてゐる

各方面被害概況

浸水家屋橋梁流失多數

!!本日午前中判明の分!!

電信　重要回線は豫め徹夜警戒した爲事故なし

電話　市内電話六ヶ所は烈風の爲通話不能となつたが今朝何れも復舊

郵便事故　上下列車を見た好間村北好間權現堂地内警察用電柱倒壞今朝復舊

不通となつた爲郵便行囊三百個一時平郵便局で保管配達事故なし

鐵道　高萩川尻間常磐線上り二時二十二分平發二百十三號列車は花關係　豊川橋梁袖石垣欠潰のため運轉不能となつたが今朝回復、十二時五十三分平發富岡龍田間準急は金山隧道潰壞の爲一時間遲延した、富岡夜の森上り急行二百二號列車は構内出水の爲富岡より折返し運轉、下り急行二百一號列車は平驛で停車

矢田川堤防欠潰 田畑五百町歩冠水

玉川の被害激甚

玉川村矢田川堤防は折柄の泥流の爲に同村民微宵の警戒の甲斐なく今曉二時二ヶ所八十間に亘つて欠壞した爲村内田畑約四百八十六町歩は悉く水浸となり稻作及び農作物は何れも大損害を被つた

米價は騰る 免れ難い減收に

農事試驗場神谷分場調査の被害概算は

早生、晩生種稻作は最近鎌入をなし乾燥中のもので流失したのが少くない見込で目下調査中である晩生種の不熟のため之の被害は相當甚大な見込である外刈取前で水害に遭つた中晩生種等は品質惡くなり過般の降雨と相俟つて相當の減收と米價騰貴は免れまい、秋作大根白菜其他農作物は殆ど全滅に等しく梨柿の果實類も烈風のため振り落されたのも少くない

母子二人が壓死

江名の山崩れ慘事

江名町大字本町平製氷會社屋は其の下敷となり一家四出張所櫻山直江方裏山の土名は生埋となつたが同町青年團消防隊が必死の活動に方を申請中の處去十日付認家依り直江外一名を漸く救助可の指令に接した。七月一百一號列車は平驛で停車頃一大音響と共に崩落し家依り直江外一名を漸く救助可の指令に接した。七月一佐氏は認可の報に欣々とし打して人事不省に陷り目下

前年同期に較べ 鐵道用炭は增加

需要減の常磐炭界に 近年珍しい好現象

近來の常磐炭山元發送高は前年に比し終始減少の一途で前年同期に比し營業用は二噸を辿りつつあるが漸次需要季に入つた去る一日より十噸を減じて居るが省用には日迄の實績高を見るに營業用三千四百三十四車四萬六百六噸、省用千四百六車、一萬七千九百四十六噸の減少に過十六噸、合計四千八百四ぎず其間減少率が餘程緩和十車、五萬八千五百五十された樣である

湯本 新營業法認可さる 無盡

新短期無盡を社員「總出動で募集開始」

湯本信用無盡株式會社は過般來眞に新時代に適合した最も合理的な新無盡を研究發案の結果縣廳にその認可を申請中の處去十日付認可の指令に接した。湯本無盡は其の下敷となり一家四名は生埋となつたが同町青年團消防隊が必死の活動に方を申請中の處去十日付認家依り直江外一名を漸く救助可の指令に接した。七月一佐氏は認可の報に欣々とし打して人事不省に陷り目下

平町新風景

記事輻湊休載

平町會招集

平町會は十六日午後一時から開催

一、御眞影奉安庫建築

一、町有地賣却　一、町役場移轉　一、元警察署敷地內火の見梯子及機械置場移轉　一、鐘樓番人弔慰　一、六年度特別會計水道給水事業豫算中變更

校外監督協議

廿日磐女で開催

磐女では來二十日午後二時より校外風紀取締協議を開

投書歡迎

『スポーツと洪水』

◇けたたましき半鐘の音宵まんぢりともしない者、不安の中を豪雨沛然、しかかせてゐる。

◇ところへボンボンと花を揚げる前に、町内を隈なあせり給ふに非ざるか。なほ一日を待ち難かりしか。

（小鹿生投）

◇さらに又、通學にも支障せん如き街上の水を見た時間抽籤を樂みた上に年利四分の安全な利殖をした事になります　三、融を圓滑ならしめるため全期の三分ノ一を拂込んだ人には年九分以下の低利で貸金をすることに致しました。

この組織ならば、地方金融として便利でもあり、また相當に社會的効果を擧げることもでき庶民金融の本分を全ふすることができると信じるのであります』

◇婦人科から小兒科へ看板を塗り替える先生が近來減切り殖えたらしい◇云、聽いて居られない話だ◇昨本欄の『モクチン煙草盆』に對して珍妙なのがあるから御注進しませうか。と物すきな或は追々釣瓶落しの日短かになんみありサア世間も物騒になつて來たぞ！。

三間の高所から 路上へ眞逆さま

七人の子女を有つ電工 不慮の災厄で生命危篤

平町禰宜町一〇東部電力平田町高久病院に入院加療中營業所工夫吉田寅松（四二）はであるが生命危篤である、一昨十二日午後八時頃同町倘同人は十六を頭に七人の胡廢澤地內の電柱に登り故障個所を修理中誤つて三間餘の高所から墜落し路傍下の敷石に頭部其他を强打して三間より校外風紀取締協議を開

『佐藤第二校長の答』

本催するが出席校は地元各小日の運動會に就ては警察學校、平商、青年、佑賢、消防方面及町內を一巡し平陽、藤田の各校である

農村電化講習會　既報農は明十五日午後一時から同會場上で擧行する

配水池工事經過

八幡小路の配水池工事は鐵管の到着が遲れたのと怪穴出現で工事が遲れ目下鐵筋組立を始め混凝土の段取が出來たと

平町浸水家屋

床下　三一九戸
床上　八戸
（平町役場調査）

坐礁船で 船員慘死

小名濱進豊丸遭難

小名濱町中坪四六漁業太田定次郎所有の進豊丸（二七噸四十馬力石油發動機船）は激浪のため豊間港へ避難せんとして今曉一時半附近を難航中暗礁に乘上げ船体大破し乘組員九名中山形縣西田郡鳴町字登町漁夫秋野己之吉（三七）は船体に頭部を强打し出血甚だしく死亡した損害約七千圓に達する見

四倉署管內

（四倉町）　元町國道三尺（大野村）山田同玉山地內縣道三尺崩壞、同山田寺岡久兵衛方床上浸水二尺セメント專用軌道百間流失（大浦村）上仁井田高橋附近國道三尺崩壞今十四日午前七時迄交通杜絕

八幡社の電柱折損　飯野八幡境內の電柱一本根本より折損した

南白土通行不能　豊間四名夏井二名の磐中通學生は山名敎諭に引率されて午前九時登校したが南白土方面の通行は困難で長橋を迂回した

吉田校長歸校

平商

磐中第四學年生百七十餘名十三日から甘黨陣屋の御膳しるこ、田舍しるこ、おぞうに、ゆであづきを始めた自慢の美味と出前迅速で大好評を博してゐる

泉屋のお汁粉　平町

狂女を持て餘す　平町紺屋町清水屋旅館事根本シン

磐中生見學

明日關西へ出發

磐中第四學年生百七十餘名は明十五日關西方面に修學旅行の爲出發二十一日夕刻歸校すると

土木被害 十五萬圓

地方の暴風雨の被害は目下平土木監督所に於て極力取り纏め中であるが各方面の消息を綜合し大体十五萬圓內外と踏んでゐる

御菓子の

御用命は

（是非）

平田町

泉屋支店

藤田女學校隣
電五一〇呼出

平職業紹介所で 失業增加を憂ふ

寄々對策を攻究

平職業紹介所では來二十六日から二十八日までの求人開拓デーに最善の努力を拂ふ爲來十六日東京で開かれる全國職業紹介所長會議の具体案に基き地方の實情に適合する具体案を作る事になつてゐるが例年十月から明年四月頃までは失業者が多く殊に北海道方面から歸るのが相當あるので地方に於ける失業者が增加するに加へ水道工事の完成は之亦失業者を産み出す事となるので同所では今後の成り行きを憂慮してゐる因に去一日より十日迄の成績は求人男六、女四、求職男十五、女十三、紹介男八、女二

新築落成御披露

今般顧客各位樣の御需めにより新時代に適應した實質本位の氣持の善い食堂を新築致しました。列車の時間待合せ御出向等に御利用下さいまして舊に倍々增し御引立を偏に御願申上げます。

階上に二十名樣迄の御會合等に御用ひになる椅子式の廣間も御座います。

西洋料理　益子屋食堂

電話六〇八番

■麻雀開業披露■

皆樣の御勸めに依り今回左記の所に麻雀を初めました。多數御出でを御待ち申して居ります。

場所　平新田町湖月前
料金　第一位無料　二位五錢　三位拾錢　四位十五錢

▼初心の方には無料にて御敎へ致します。

ピンホ　平和倶樂部